

修田京太展



院文化庁

2026.3.6_金—3.29_日 Museum⁺205

川崎市役所本庁舎
復元棟2階

主催
川崎市市民ミュージアム

袴田京太郎 隠された、

川崎市在住の彫刻家、袴田京太郎。袴田はこれまで、彫刻でよく使われる素材とは異なる、家具などの日用品、置物、電線、カラフルなアクリル板などを用いて制作を試みてきました。近年は「複製」をテーマに制作に取り組み、オリジナルとコピーそれぞれの本質、そして両者の関係性を探求し続けています。

旧川崎市庁舎を復元した建物の1室を会場とする本展は、2つの作品を中心に構成されます。1つは3つのバラバラな要素が大きなカーテンを介して共存する作品《ザンダー》(2023)。タイトルでもあるアウグスト・ザンダー(1876-1964)は写真黎明期のドイツの写真家で、彼の写真作品《盲学校の子ども》をモチーフにした人型の彫刻がこの作品の核となります。そしてもう1つは、川崎市ゆかりの彫刻家・圓鏑勝三(1905-2003)の作品《裸婦と佛》をモチーフにした新作。高さ3mにもなるこの作品は、発泡スチロール板の積み重ねで制作されます。前者は平面を立体で、後者は立体を平面の積層で複製した作品と言えるでしょう。

いずれの作品にも、見えていないはずのものが創り出されていたり、不確かさの存在を認識しながら制作されていたりと、どこか曖昧で危うい何かが潜んでいます。その何かを探ることで、袴田の彫刻とこの世界との接続点が立ち現れてくるのかもしれません。

会期 **2026.3.6金** — **3.29日**
9:30-17:00 (最終入場16:30) 月曜Closed 観覧無料

袴田京太郎 Kyotaro Hakamata

1963年静岡県生まれ。1987年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。1994年文化庁芸術家在外研修員。1996年五島記念文化賞美術新人賞。2011年タカシマヤ美術賞。主な個展として、静岡市美術館(2011)、平塚市美術館(2014)、富山県美術館TADギャラリー(2023)。主なグループ展として「DOMANI・明日展2021」国立新美術館、「瀬戸内国際芸術祭2025」など。主な収蔵先として、愛知県美術館、宇都宮美術館、川崎市市民ミュージアム、佐久市近代美術館、資生堂アートハウス、東京国立近代美術館、富山県美術館、他。

チラシ掲載作品：袴田京太郎《ザンダー》2023年(部分)
圓鏑勝三《裸婦と佛》1976年(部分) 撮影：加藤健 ※参考作品
チラシデザイン：牧寿次郎

主催・お問い合わせ：川崎市市民ミュージアム
Tel：044-712-2800 (8:30-17:15、土日祝を除く) Fax：044-712-2804
E-mail：25museum@city.kawasaki.jp
<https://www.kawasaki-museum.jp/exhibition/32202/>



関連事業

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

2026年3月22日(日) ①10:30-12:30 ②14:00-16:00 要事前申込(定員各回7名)
Museum+205(川崎市役所本庁舎復元棟2階) 参加無料

ナビゲーター：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

お申し込み

2月20日(金) 10:00-3月10日(火) 16:00
川崎市市民ミュージアムWebサイトのイベントページから
<https://www.kawasaki-museum.jp/event/32319/>



※1組2名まで申込可、申込者多数の場合は抽選
※参加の可否を3月13日(金)までにメールでお知らせします

対象：障害の有無に関わらず、どなたでも(中学生以下の方は保護者同伴)。申込フォームに必要事項をご記入のうえ、お申込みください。

内容：目の見えない人、見えにくい人と見える人が、ナビゲーターや学芸員と一緒に作品を見るワークショップです。作品の印象や感じたことなどについて、様々な言葉を交わしながら鑑賞しましょう(詳しい作品解説は行いません)。

会場 Museum+205

川崎市役所本庁舎復元棟2階

〒210-8577 神奈川県川崎市川崎区宮本町1番地
JR川崎駅から徒歩7分/京急川崎駅から徒歩5分

